

令和8年4月適用「高年齢者の労働災害防止
のための指針」対応ガイド

高年齢労働者の 安全と活躍を守る 「新・安全衛生管理」

経験豊富なベテラン社員を「リスク」ではなく
「戦力」として活かし続けるために



令和8年（2026年）4月より、高年齢者への安全配慮が「努力義務」となります



労働安全衛生規則の改正により、事業者は「高年齢者の特性に配慮した措置」を講じることが求められます（基発0210第1号）。

現在



2026年4月（令和8年）



背景

働く人の4人に1人が高齢者となる時代。労働災害の発生率は年齢とともに上昇傾向にあります。



法的変更

改正労働安全衛生法（第62条の2第2項）に基づき、新たな指針が公表されました。

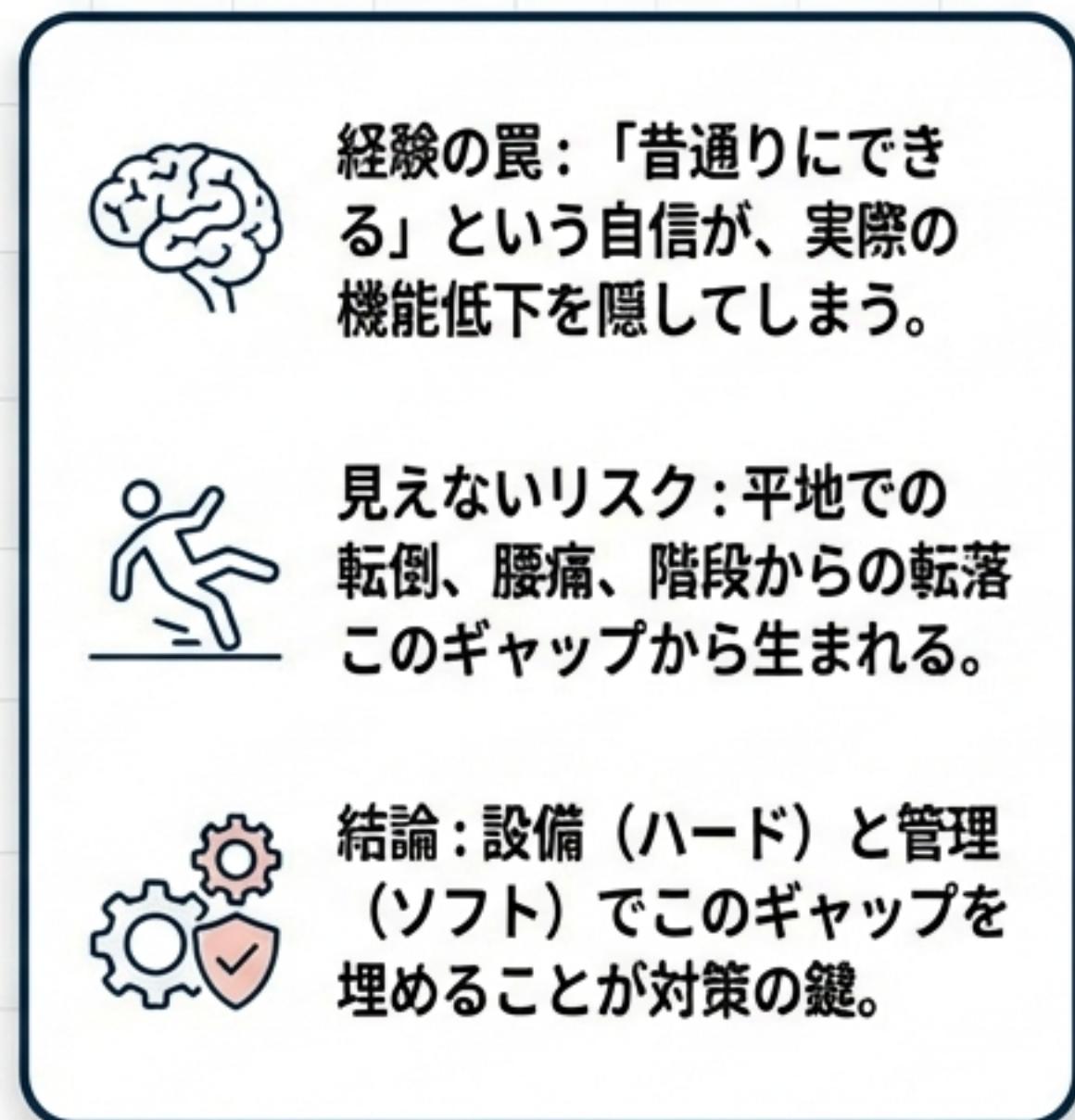
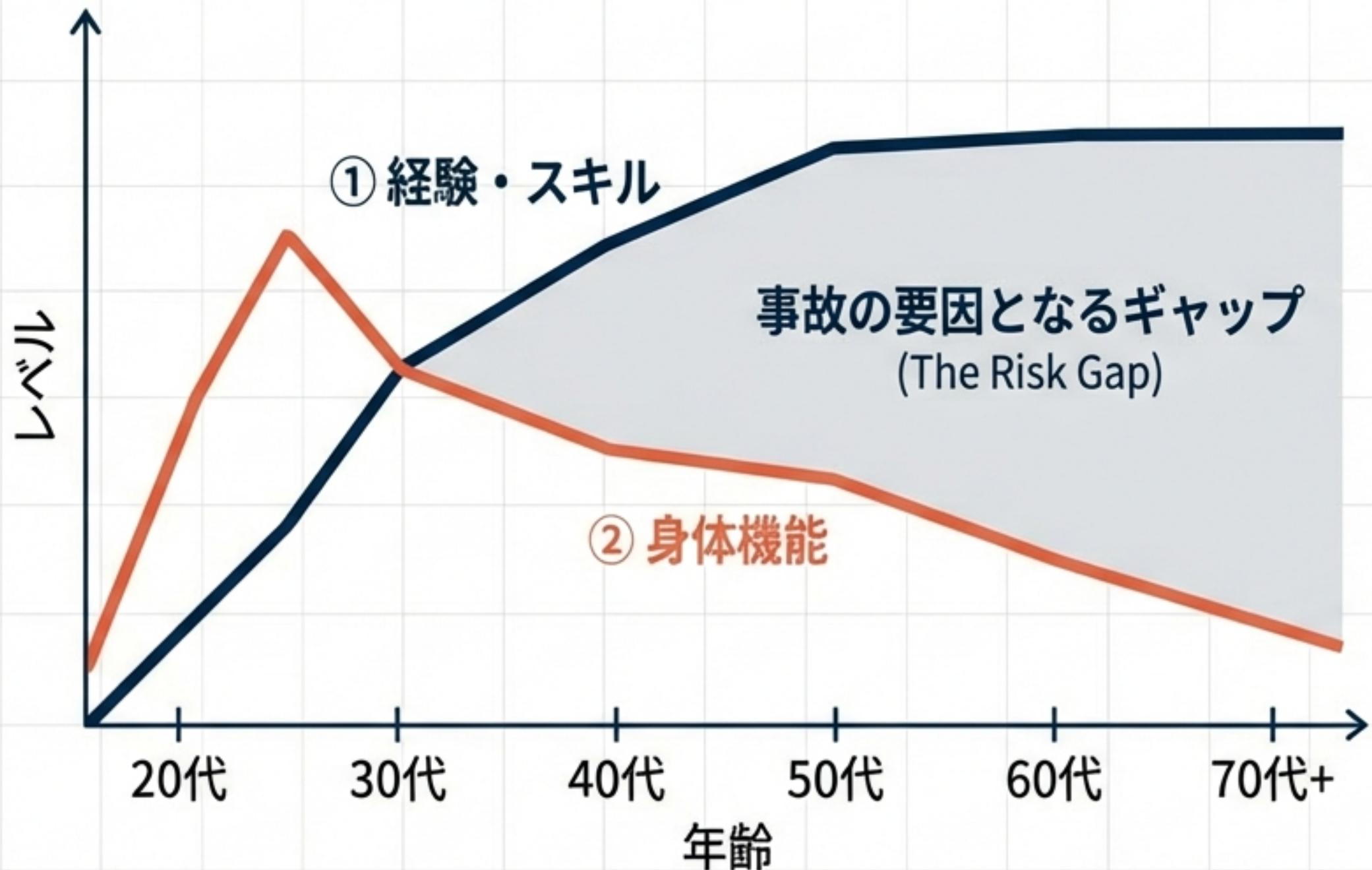


メッセージ

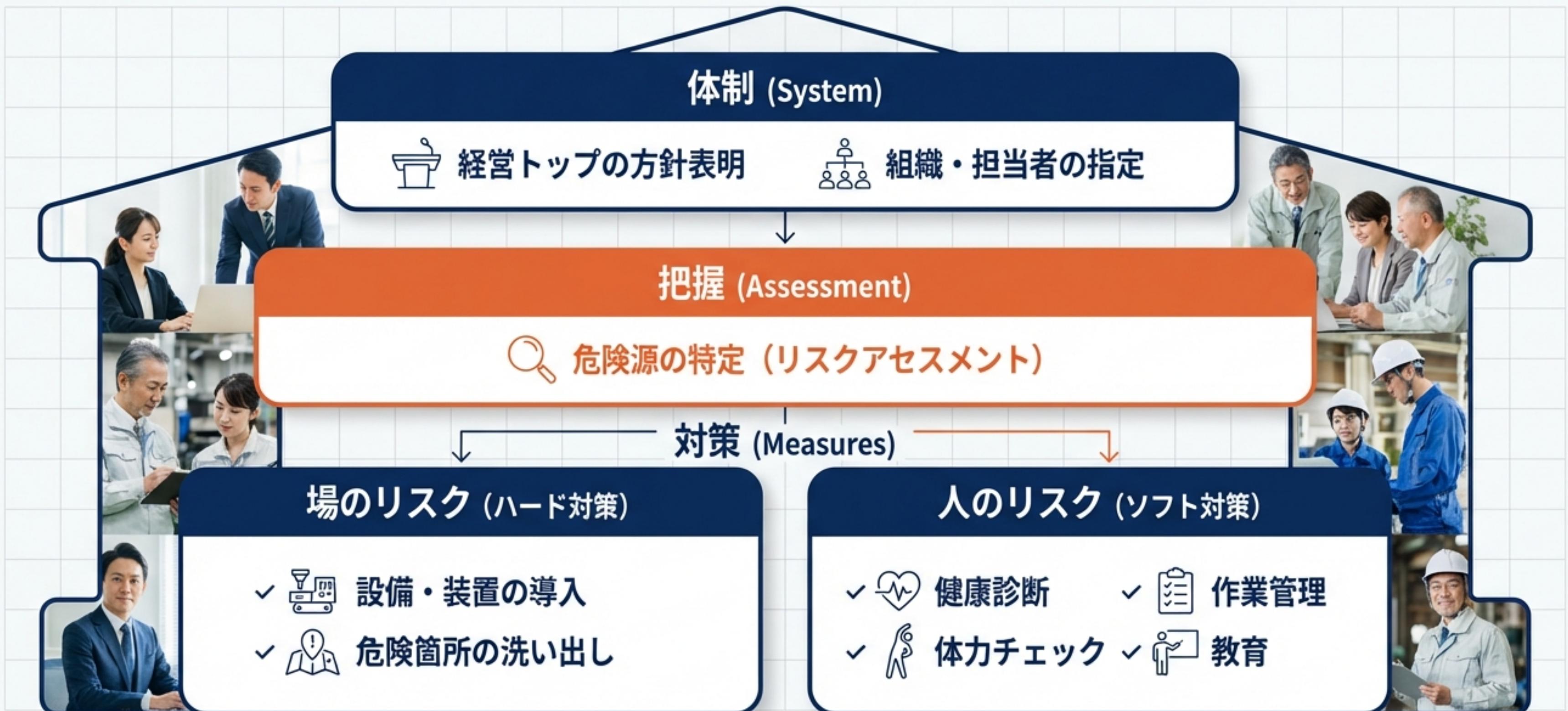
法令対応は必須ですが、これは「罰則回避」のためだけではありません。人手不足の中で、ベテラン社員に長く安全に働いてもらうための「企業防衛策」です。



経験豊富なベテランほど危ない? 「身体機能」と「自信」のギャップ



国が推奨する「高年齢者労働災害防止」の全体像



【STEP 1】経営トップによる「安全衛生方針」の表明

現場任せにせず、会社として「高齢社員を守る」姿勢を明確にします。

- ✓ 方針の明文化：安全衛生方針の中に「高年齢者の特性に配慮した環境づくり」を盛り込む。
- ✓ 体制の整備：安全衛生委員会などを通じ、高年齢者対策の担当者を明確にする。
- ✓ 声を聞く：現場の高齢労働者から「ヒヤリとした体験」や「辛い作業」を直接ヒアリングする。



「働きやすい職場づくり」は、若手を含む全社員のモチベーション向上につながります。

【STEP 2】若い人には見えない「危険」を探す（リスクアセスメント）

30代には何でもない場所が、60代には「事故現場」になります。以下の視点で職場を総点検してください。



厚生労働省の「労働災害事例集」や「ヒヤリ・ハット事例」を参照し、危険源を特定します。

【STEP 3】職場環境の改善（ハード対策）

身体機能の低下を補う「設備」への投資



転倒防止

- ・通路の段差を解消（スロープ化）
- ・階段への手すり設置（両側推奨）
- ・床に防滑素材（シート・靴）



視環境の改善

- ・通路や手元の照度を上げる
- ・危険箇所を「目立つ色」で表示（虎柄テープ）



暑熱対策

- ・涼しい休憩所の確保
（高齢者は暑さを感じにくいため特に重要）

【STEP 4】働き方の見直し（ソフト対策：作業管理）

「無理のないスピード」と「ルールの徹底」



マルチタスクの回避

複数の作業を同時進行させない（注意力分散による事故防止）。



こまめな休憩

連続作業時間を短縮し、回復時間を設ける。



重量物の制限

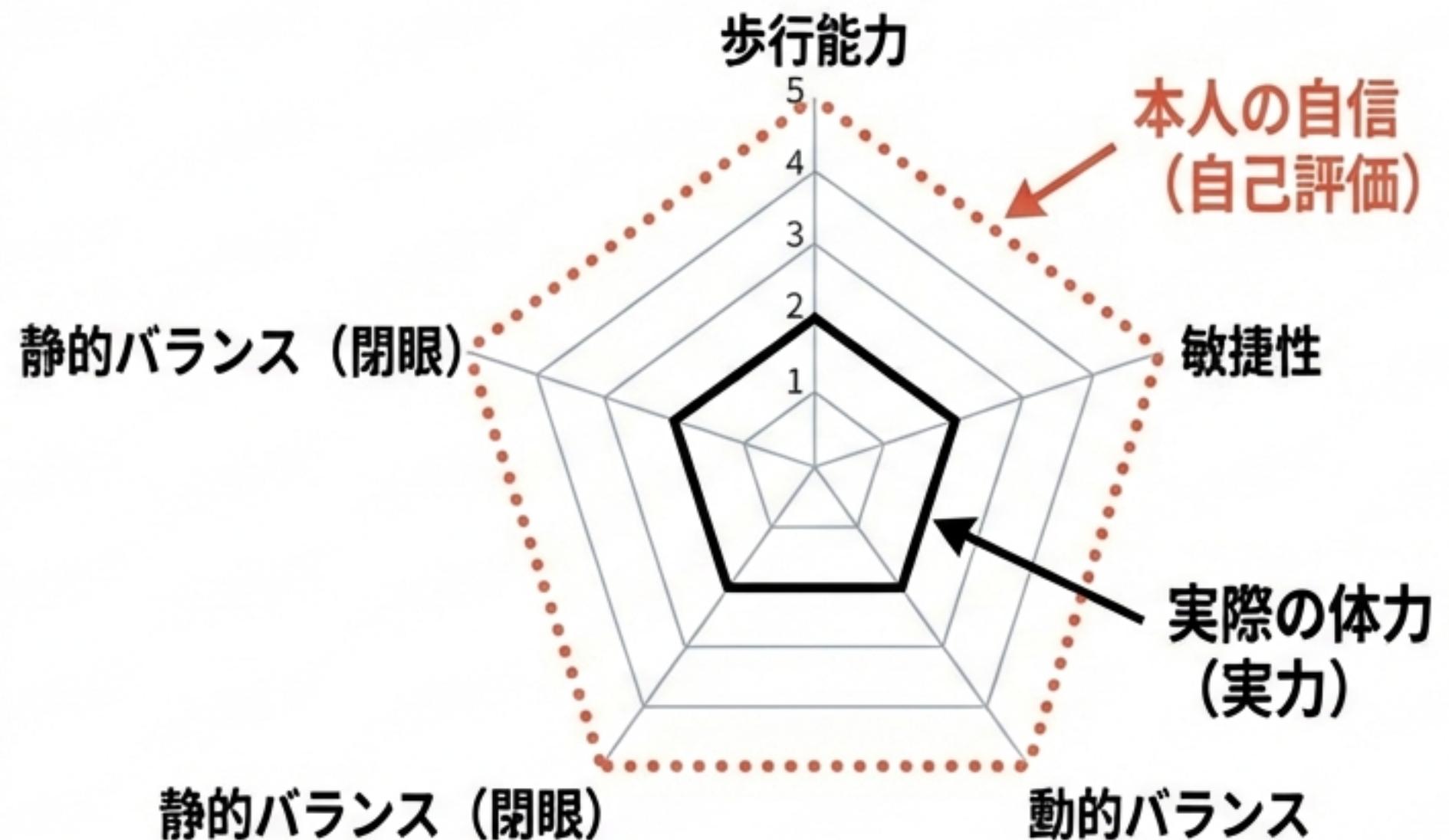
アシストスーツや台車の活用、荷物の小口化で腰痛予防。



バディ制（相互確認）

特に暑熱環境では、2人以上で互いの顔色や体調を確認し合う。

【STEP 5】「自信」と「実力」のズレに気づかせる（健康・体力の把握）



危険なサイン:



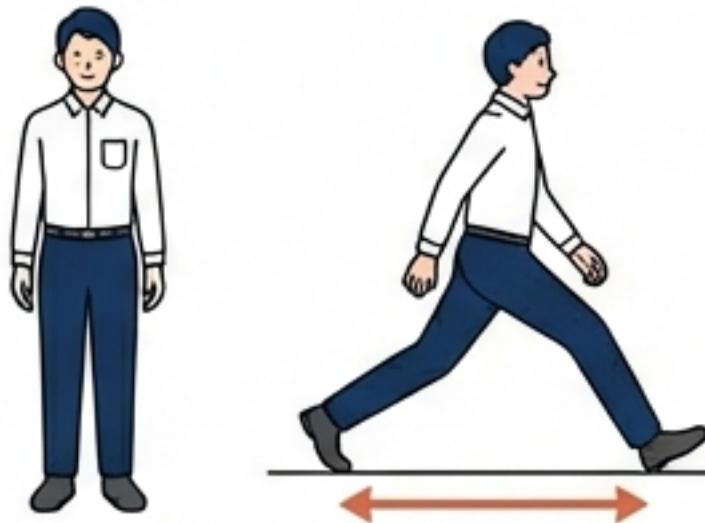
「黒線 < 赤線」の状態。
本人が思っている以上に体が
動かないことを示しています。
この状態でとっさの行動をと
ると、転倒災害につながりま
す。

体力チェックの真の目的は、この「ズレ」を本人に客観的に認識させることにあります。

特別な器具は不要。オフィスでできる「体力チェック」

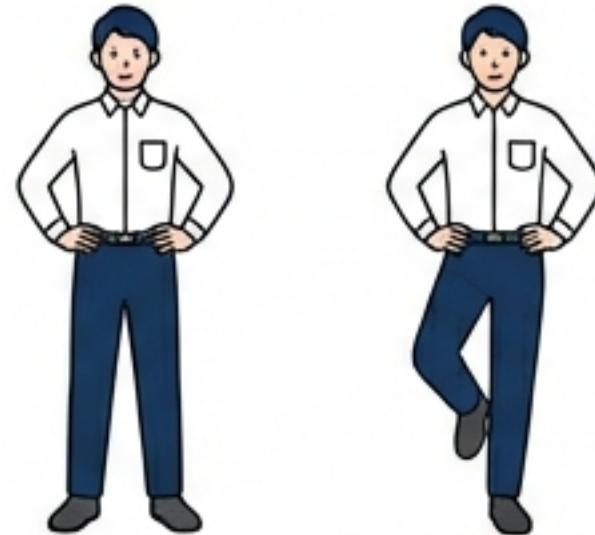
転倒リスクを測る簡単なテスト例

2ステップテスト



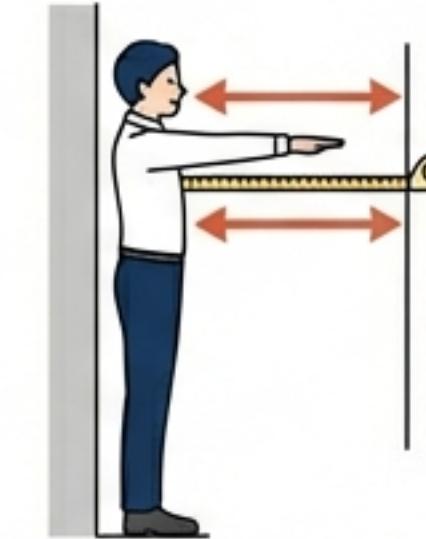
歩幅を測定し、歩行能力と下肢筋力を評価。

開眼片足立ち



静的なバランス能力を評価。

ファンクショナルリーチ



腕を前に伸ばし、動的バランスを評価。

これらの結果をレーダーチャートに落としこみ、本人へのフィードバックに活用します。

安全衛生教育のアップデート（再教育）

「慣れ」と「加齢」のリスクを学ぶ



意識改革

「長年の経験があるから大丈夫」という過信を捨て、身体機能の変化をデータ（体力チェック結果）で理解させる。



骨密度のリスク

骨密度が低下していると、ただの転倒が「寝たきり」につながる骨折事故になるリスクを周知する。食事や運動による予防の重要性を伝える。



映像活用

文字だけでなく、写真やVR、動画を用いた分かりやすい教育を実施する。

労使協力：働く側にも求められる「ヘルスリテラシー」

会社と社員が二人三脚で取り組む



安全は「与えられるもの」ではなく「共に作るもの」

明日から使えるツール：「エイジアクション100」

何から始めれば良いかわからない場合は、
厚労省推奨のチェックリスト「エイジアクション
100」を活用してください。

チェック項目例：

- ✓ 階段に手すりはあるか？
- ✓ 通路にコード類は放置されていないか？
- ✓ 準備体操を行っているか？

提案：まずはこのリストを使って、安全衛生委員会
で「職場の総点検」を行うことから始めましょう。



国の支援制度（補助金・相談窓口）の活用



エイジフレンドリー補助金

高齢者が安心して働くよう、職場環境を改善する中小企業に対し、費用の一部補助する制度。



専門家相談

中央労働災害防止協会や産業保健総合支援センター（さんぽセンター）による現場診断・助言。



ノウハウ

独立行政法人高齢・障害・求職者者雇用支援機構（JEED）の活用事例集。

申請や活用の詳細については、私たち社会保険労務士にご相談ください。

「安全」への投資は、企業の「持続可能性」への投資



高齢社員向けの安全対策を行うことは、結果として
「誰にとっても働きやすい、安全な職場」を作ることにつながります。
労働災害による損失を防ぎ、貴重なベテラン人財の能力を最大限に引きここと。
それが令和時代の経営戦略です。

Next Steps:

1. エイジアクション100で現状チェック
2. 安全衛生方針の見直し
3. 体力チェックの導入検討